

2004年に設立した法科大学院は、養成する6つの法曹像を掲げ、複雑化・多様化していく社会のニーズに応え、生活紛争から国際的な紛争まで様々な局面で力を発揮する法曹を輩出しています。ビッグ・ロースクールならではの多様なカリキュラムと中大法曹会の協力を得た充実した教育支援体制によって、新司法試験では堂々とした実績を出し、2008年度の短答式試験合格者

は、人数・合格率ともに1位でした。

中大法曹会奨学金の創設や修学環境のさらなる改善を図るとともに、職域の開拓にも注力し、入口から出口までのトータルケアを指向しています。また、公開講座をはじめ、ソウル、東京における日韓シンポジウム開催など社会的貢献に努め、理想的な教育研究を展開しています。

## ■ ロースクールシンポジウムを開催

2010年に創立125周年を迎える本学は、そのプレ企画として昨年6月に韓国ソウル市内で国際シンポジウム「ロースクール制度の望ましい運営と課題」を開催しました。

その後、文部科学省の「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム(GP)」に選定され、本大学院が取りまとめ校となっている「グローバル化に対応した法曹養成プログラム」の一環として、昨年11月に、日韓シンポジウム「アジアにおける新たなロースクールの将来 ―グローバル化に対応した法曹養成―」を開催しました。

本法科大学院は、日本で最初のロースクールの一つとして2004年4月に開設されましたが、韓国でも、2009年3月からロースクール制度による法曹養成が始まります。

今回実施した2つのシンポジウムでは、両国の法曹養成制度の共通点・相違点を明らかにすることによって、より良い法曹養成

制度を探求し、日本におけるロースクールの成功例とも言える本学の先行事例を、地理的に近く、また法制度全体が近似している韓国において紹介する機会になりました。



(写真上)  
2008年6月5日開催  
創立125周年事業プレ企画  
「韓国ソウル国際シンポジウム」  
(写真左)  
2008年11月29日開催  
GP関連「法曹養成シンポジウム」

国際会計研究科（アカウンティングスクール、通称CGSA）は、2002年4月に市ヶ谷キャンパスに開校し、これまで500名近くの修了生（専門職修士、MBA）を輩出しています。CGSAは開校以来一貫して、会計とファイナンスをコアスキルに、ビジネスや会計の最先端で活躍する人材の育成を目的にしてきました。CGSAの修了生は、在学中に培った会計、ファイナンス、マネジメン

トの知識を武器に活躍し、所属する企業や転職市場でもその実務能力の高さが評価されています。たとえば、2007年3月の修了生のうち、学部卒業後に入学した修了生全員が、大手監査法人、証券会社、銀行、資産運用会社等へ就職し、社会人修了生については、わかっているだけでも10名近くが転職によるキャリアアップを果しています。